

取扱いの趣旨

経口抗菌薬等は、薬効が一定期間安定して持続することが求められる薬剤であり、屯服薬としての算定は、原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【投薬】 《令和6年9月30日》

298 5－HT3受容体拮抗型制吐剤等の屯服薬としての算定について

○ 取扱い

- ① 5－HT3受容体拮抗型制吐剤（ナゼア錠等）の屯服薬としての算定は、原則として認められる。
- ② 次の薬剤の屯服薬としての算定は、原則として認められない。
 - (1) 経口抗菌薬
 - (2) 選択的直接作用型第X a 因子阻害剤（イグザレルト錠等）
 - (3) 神経障害性疼痛又は線維筋痛症に対する疼痛治療剤（リリカカプセル錠等）

○ 取扱いを作成した根拠等

屯服薬は、1日2回程度を限度として臨時的に投与するものと定義されている（昭和24年10月26日保険発310）。

① 5－HT3受容体拮抗型制吐剤（ナゼア錠等）は、抗がん剤投与の1時間前に投与することで悪心・嘔吐の発症抑制に有用であることが示されている。

以上のことから、5－HT3受容体拮抗型制吐剤（ナゼア錠等）の屯服としての算定は原則として認められると判断した。

一方、②経口抗菌薬は細菌感染症の治療、選択的直接作用型第X a 因子阻害剤（イグザレルト錠等）は虚血性疾患、血管塞栓症・血栓症の発症抑制であり、神経障害性疼痛または線維筋痛症に対する疼痛治療剤（リリカカプセル等）は慢性疾患の疼痛に対する治療薬である。これらの薬剤は薬効が一定期間安定して持続することが求められる薬剤である。したがって、屯服薬で服用する薬剤ではない。

以上のことから、経口抗菌薬、選択的直接作用型第X a 因子阻害剤（イグザレルト錠等）、神経障害性疼痛又は線維筋痛症に対する疼痛治療剤（リリカカプセル等）の屯服としての算定は原則として認められないと判断した。

グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員等	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

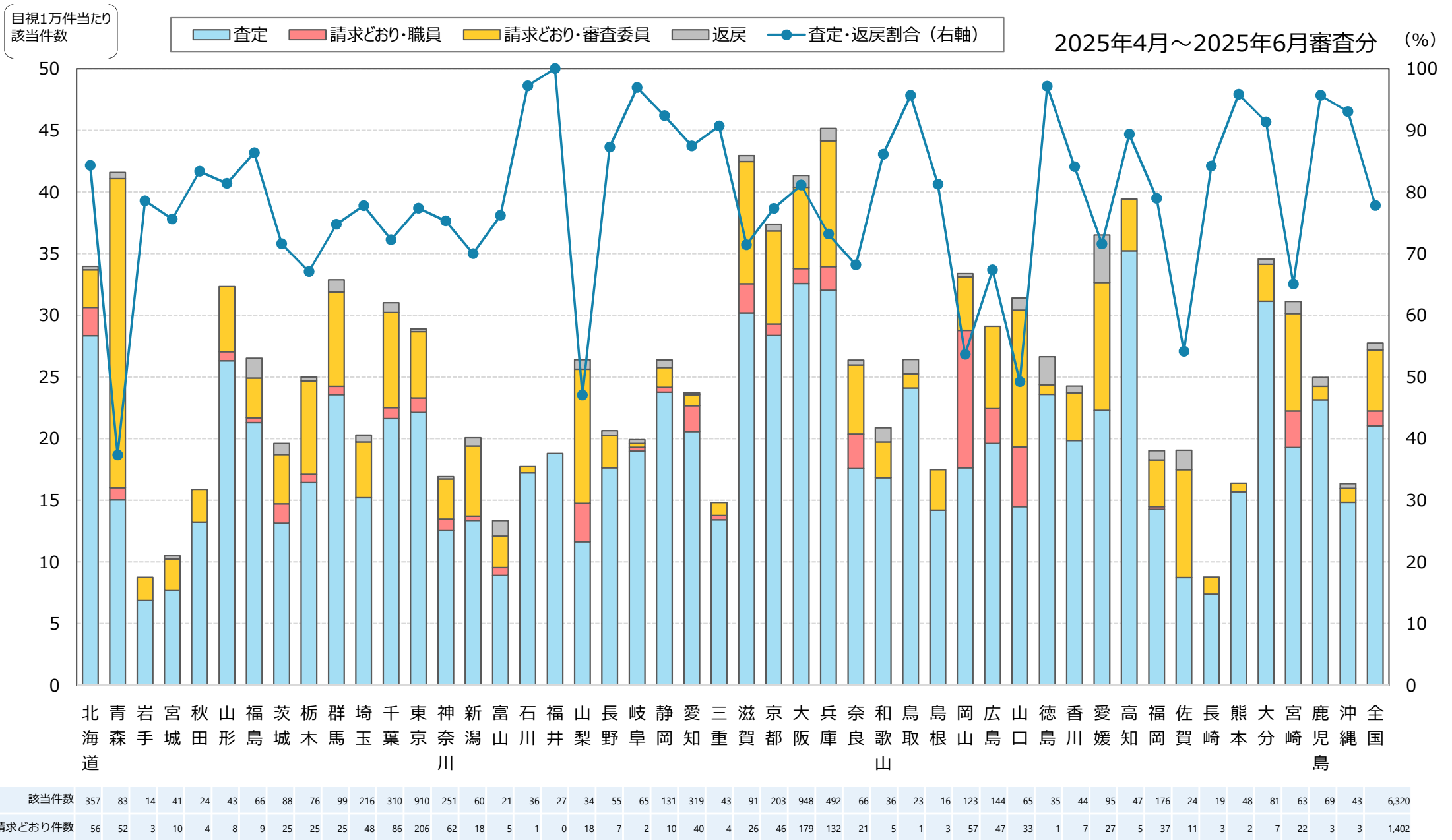
審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 77.82%
- 検証対象都道府県 36

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	青森、山梨、山口、岡山、佐賀、宮崎、栃木、広島、奈良、新潟、滋賀、愛媛、茨城、千葉、兵庫、群馬	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	岡山、山口、山梨、宮崎、広島、奈良、滋賀、北海道、愛知、兵庫、茨城、大阪、東京、青森、神奈川、京都	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	青森、山口、山梨、愛媛、兵庫、滋賀、佐賀、宮崎、千葉、群馬、栃木、京都、広島、大阪、新潟、奈良	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	6,320件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	4,918件
検証を必要とする審査	請求どおり	1,402件



【該当件数】取扱いの趣旨に該当したレセプト件数